

Information

10月入職医師 紹介

呼吸器内科

うるま たかひろ
潤間 隆宏 医師

1985年 千葉大学医学部卒

【呼吸器内科紹介】

呼吸器内科外来では、内科疾患の中で、胸部レントゲン異常、長引く咳、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、睡眠時無呼吸症候群(検査と治療を行う体制を整えています)などに対する診療を行っています。火・木午後には、胸部X線異常精査外来を設けており、受診当日に低被曝・高画質で撮影可能な320列CTで撮影(薄切り1mmスライス)を行い、後日結果を説明します。CTで肺癌が強く疑われる場合は、近隣の高次医療機関に紹介し、陰影が小さくはっきりしない場合はCTで経過観察を行います。兼任している人間ドック科で開始する超低線量CT肺がん

検診と併せて、「肺がんの早期発見」に努めて参ります。なお、当科は、外来診療が主体であり、気管支鏡検査等の専門的な精査は行えないため、専門的な精査が必要な場合は近隣の高次医療機関に紹介しています。マンパワーが足りないため、内科系疾患の「呼吸器内科宛て」の救急・入院依頼には対応しておりませんので、地域連携室に御相談ください。

【ひとこと】

胸部X線異常精査と人間ドック科の超低線量CT肺がん検診で肺がんの早期発見を目指します。

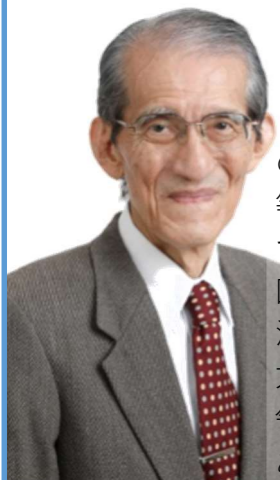


和漢診療科 顧問 寺澤 捷年医師「瑞宝中綬章」受賞

2023年11月秋の叙勲で寺澤捷年医師が富山医科薬科大学名誉教授として「瑞宝中綬章」を受賞されました。

【叙勲のことば】

秋の叙勲の栄に浴しました
和漢診療科 顧問 寺澤 捷年



去る11月13日の秋の叙勲で、瑞宝中綬章を授与され、皇居において拝謁の栄に浴しました。旧・叙勲制度の勲三等に相当するものです。これは国立大学である富山医科薬科大学及び千葉大学医学部で教授職を務め、その教育・研究活動が評価されたものです。わたしは漢方の臨床を専門としておりますが、この領域での叙勲は歴史上初めてのことであり、大変に嬉しく思っています。



受賞暦

- 1986年 7月 北里研究所「大塚敬節賞」
- 1996年 4月 陳立夫中医薬学術奨賞
- 2002年 8月 和漢医薬学会 学会賞
- 2005年 6月 日本東洋医学会 学術賞
- 2008年 6月 日本史学会 矢数道明史学賞
- 2009年 11月 武見記念・生存科学賞
- 2017年 2月 全日本学士会・アカデミア賞
- 2017年 11月 日本医師会・最高優功賞
- 2023年 11月 瑞宝中綬章

詳細はこちら



医療法人社団 誠馨会

千葉中央メディカルセンター

〒264-0017 千葉県千葉市若葉区加曾利町1835-1

☎043-232-3691

千葉中央メディカルセンター

検索

医療法人社団 誠馨会



Chiba Central Medical Center

千葉中央メディカルセンター
ニュース 第87号

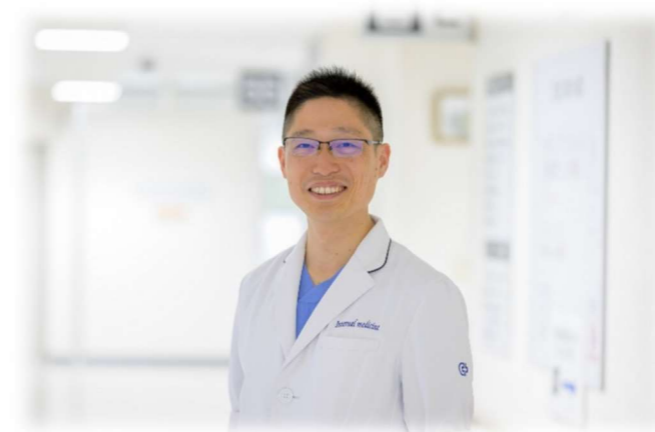
発刊：2024.1.20

編集：CCMC 広報委員会

1面：(特集) 内科 2・3面：入院満足度調査結果報告 4面：Information

(特集) 内科

内科 部長 鈴木 慎吾



「内科」の守備範囲は医療機関によって異なります。当院の内科系診療科は消化器内科、循環器内科、呼吸器内科、腎臓内科、人工透析内科、和漢診療科、糖尿病センター、アレルギー疾患リウマチ科(外来のみ)、脳神経内科(外来のみ)がありますが、それらの領域と感染症、代謝内分泌、血液、老年内科などを「並列的に」診療するのが当院における「内科」です。外来を受診する患者さんにとっては高血圧症・脂質異常症・糖尿病などの生活習慣病に加え、症状の原因臓器が不明確なとき、複数の症状や疾患を臓器横断的に評価するときなどに受診する診療科と言えるでしょう。

メンバーは筆者、山本和利医師、原一彰医師の3名で内科外来2診と内科ファーストコール(内科系救急)を分担し、入院診療は和漢診療科の地野充時医師、太田陽子医師も担っています。また、2023年10月からは潤間隆宏医師が呼吸器内科・人間ドック科の常勤として入職しました。入院患者さんの診断・治療方針は、アレルギー疾患リウマチ科の猪熊茂子医師も加わってモーニングカンファレンスで議論します。これは複数の視点で見落としを防ぎ、知識を共有

することが主目的ですが、「正しい答え」のない医療行為に対する意見交換の場にもなります(医師・看護師・薬剤師・リハビリテーション科・ソーシャルワーカーなどを含めた他職種カンファレンスも週に1回行っています)。

例えば高齢者では、肺炎や尿路感染症などの「疾患」を治癒できても、身体機能の低下によって食事を摂れなくなることが少なくありません。海外では人工的な栄養投与や食事介助は「虐待」とみなす国が多いですが、日本では経管栄養(鼻などから胃に管を通し栄養投与する)や点滴を行うことがあります。それによって寿命は伸びますが、感染症を繰り返して苦痛が長引くなどデメリットの考慮が必要です(健康寿命は伸びません)。こういった状況では御本人に判断能力のないことがほとんどであり、家族の選択に対して「本人のためになっているのか」と悩ましいことが多々あります。いざというときに何を希望するか、何を優先させたいか、御家族や主治医などと予め相談することをアドバンス・ケア・プランニング(ACP)といいます。元気な今こそ実践するときなので、是非ともご検討ください。ちなみに筆者は数々の患者さんの「治療」経過を目にしてきた結果、「帰宅できる見込みが極めて低ければ一切の延命行為を拒否する」と宣言しています。



入院患者 満足度アンケート調査結果 (要約)

当院では、入院患者さんの満足度に関するアンケート調査を通年実施し、今後の医療サービスの向上を図るための参考資料として活用しております。入院中の様々な検査・治療等ご多用にも関わらず、多くの方にご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

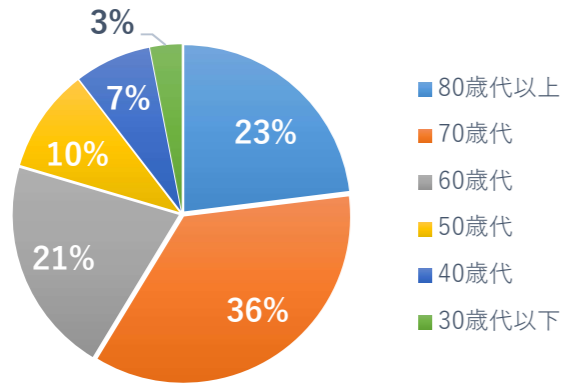
《 調査概要 》

対象：下記期間に入院されたすべての患者さん
期間：2022年12月～2023年11月
回答数：202名（男性137名、女性65名）
回収・集計：サービス向上委員会
監修：総合相談SC 課長 清水 千賀子

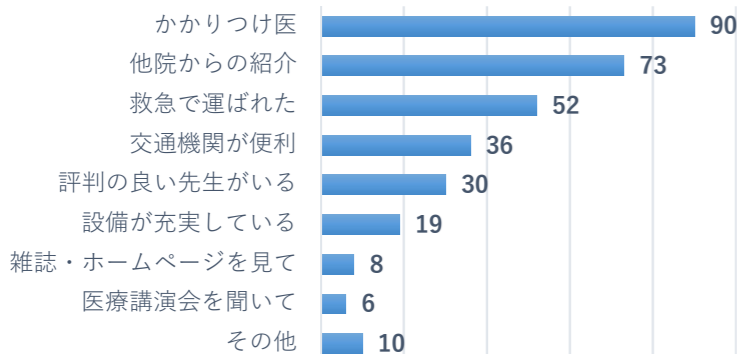
アンケート回答者



対象者年齢構成比



当院を選んだ理由 (複数回答)



n=324 単位：人

【当院に対するご意見・ご要望等】

☆：肯定 ★：否定 △：希望・要望
※ご意見の中から一部を抜粋し、文意を基に加筆・割愛しています。

《サービス・情報提供》

☆先生の説明が丁寧で分かりやすかった。
☆看護師の申し送りがしっかりされていて安心できた。
☆どの場面でも気持ちよく対応してもらい心強かった。さりげなく励ましてくれる言葉や素早い対応にこちらでお世話になり本当によかったですと感謝しています。

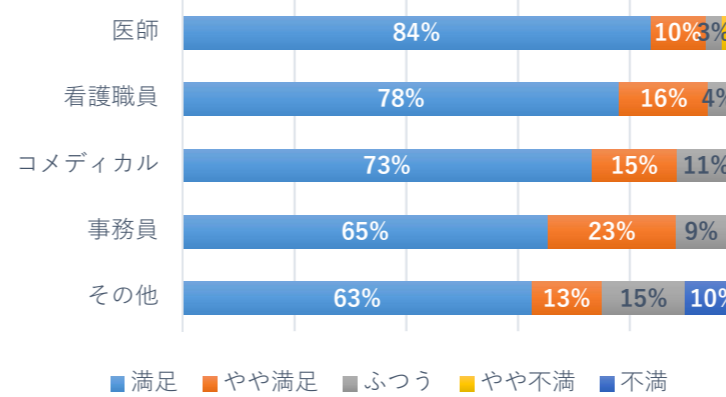
- ★シーツ交換がいつ来るのかわからない。
- ★一部の職員の言葉遣いを改めてほしい。
- ★個室料金の説明はしっかりしてほしい。
- △面会ができないのは仕方がないがもう少し患者の様子を知りたい。

《設備・機能面》

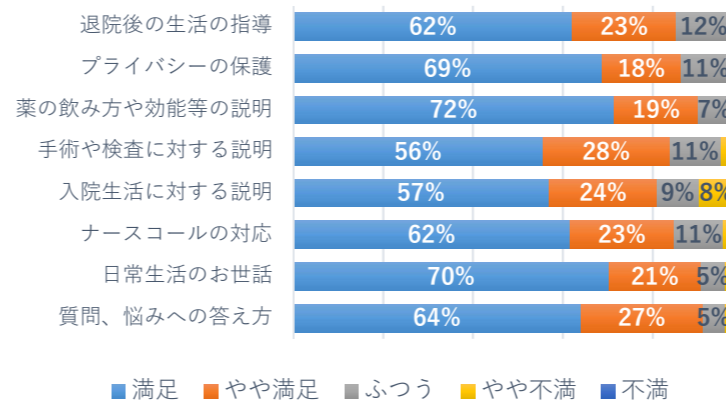
☆食事は前回入院したときより良かった。
☆Wi-Fiが使えて良かった。
★夜中にカートの音が響いてうるさい。
△食事にデザートかフルーツを付けてほしい。
△病室に掛け時計がほしい。
△個室の空調、風向きが変更できず不便。
△手術衣の前身頃にポケットがあるとトイレに行くときに便利だと思う。



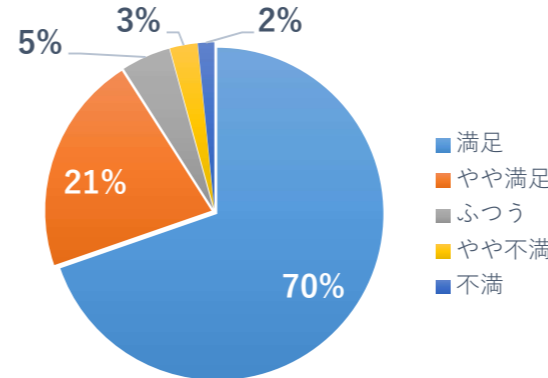
職員の対応



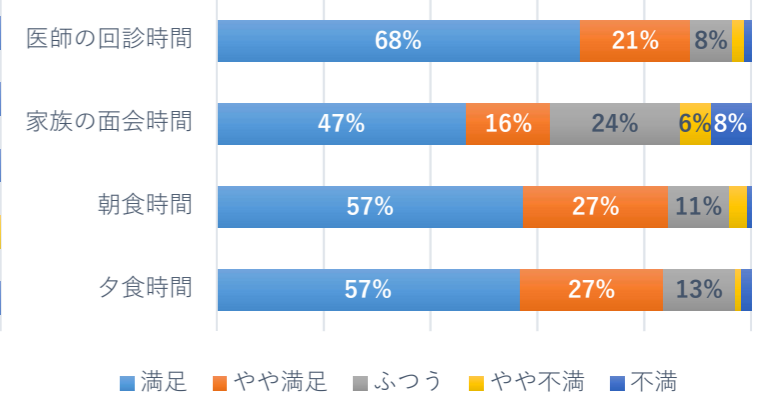
サービスや情報提供



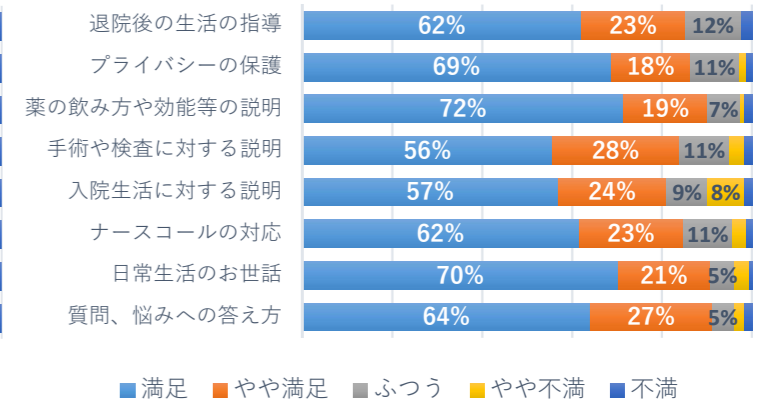
当院全体の満足度



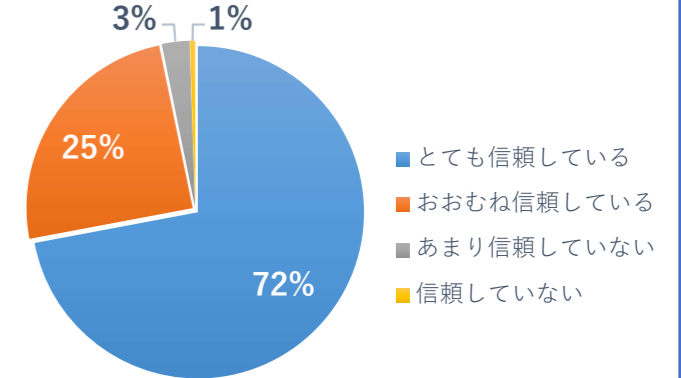
時間管理



設備・機能面



この病院を信頼していますか？



この度は、入院患者満足度アンケート調査にご協力いただきありがとうございました。今回のアンケートでは、皆様からお褒めの言葉を数多く頂戴し、職員一同大きな励みとなりました。その一方で厳しいご意見も多数頂戴し、改善が必要な課題を再認識いたしました。特に面会につきましては多くのご指摘をいただいております。継続して取り組んでいかねばならないと考えております。新型コロナウイルスは5類へと移行しましたが、インフルエンザも含めまして今でも多くの感染症の患者さんが入院されます。

患者さんご家族の面会等、可能な限り対応して参りたいと存じますが、院内感染を起こさせない、感染を広めない事が重要と考えておりますので、引き続きご不便をお掛けする事もあると思っておりますが、ご理解の程よろしくお願いたします。皆様から頂きました貴重なご意見を参考に、患者さんが安心して入院、通院ができる地域に根差した病院を目指して、今後も職員一同一層努力して参ります。何卒よろしくお願いたします。

事務部 部長 木村 智彦